

総 括 編

管内の概要	1
圏域の紹介	2～3
管内図と庁舎の現況	4～5
消防の歴代管理者	6～7
消防本部、消防署の組織	8
消防本部、消防署の事務分掌	9～11
消防相互応援協定の状況	11
消防本部の沿革	12～19

甘木・朝倉消防本部の基本方針

めざそう 住民の安全 そして安心

重点施策事項

- 1 住民のニーズに応える防災情報の提供
- 2 住民のための消防行政サービスの徹底
- 3 事務の簡素化・効率化と活力ある職場作りの推進
- 4 自己意識の改革（態度・服装・笑顔・傾聴）と実行
- 5 報告・連絡・相談・的確な指示の徹底
- 6 体力・身心の強化と健康の保持増進
- 7 安全管理で明るく楽しい快適な職場環境の維持

職員綱領

- 1 吾等消防職員は職責を自覚し、規律の保持につとめよう。
- 2 吾等消防職員は身心の鍛錬に励み、知識技術の向上をはかろう。
- 3 吾等消防職員は和合の精神をもって団結し、親しまれる
消防人になろう。

（甘木・朝倉消防職員綱領全文より抜粋）

事故防止一斉唱和

- 1 安全呼称の徹底
- 2 左右確認・最徐行の徹底
- 3 赤信号、一旦停止の徹底
- 4 車両誘導は確実に
- 5 優先通行権を過信しない

管内の概要

● 位置及び面積

当組合消防は福岡県のほぼ中央に位置し、朝倉市・筑前町・東峰村の1市1町1村で構成されています。

東西32km、南北18km、約365km²と広大な面積を有し、人口は約9万1千人そのうち65%が朝倉市に集中しています。

● 地勢

管内北部、東部は標高860mの古処山（朝倉市）をはじめ山岳地帯が広がり、東峰村の浅間山など登山客に人気のスポットが数多くあります。

その裾野の丘陵地帯には梨・柿・ぶどうなどの果樹が栽培され、観光農園や体験農場があります。南には平野部が広がり、圏境を筑後川が流れて米麦のほか大都市へ供給する生鮮野菜類の生産も盛んに行われています。

都市部へのアクセスとして甘木鉄道、西鉄甘木線があり、それぞれの沿線では宅地化が進んでいます。

また、朝倉市には大分自動車道のインターチェンジが3箇所あり、その周辺には工業団地が形成されています。

● 観光

管内には、西から順に県立夜須高原記念の森、上高場の大藤、城下町秋月、国史跡指定の平塚川添遺跡、朝倉三連水車、原鶴温泉、小石原焼、宝珠山岩屋公園など、みどころがたくさんあります。



消防本部上空から朝倉市街地撮影

甘木・朝倉広域市町村圏事務組合

- 人口 90,637人
- 世帯数 30,622世帯
- 面積 365.84km²



朝 倉 市

- 人口 58,723人
- 世帯数 20,044世帯
- 面積 246.73km²



夕月神社の桜（杷木古賀）

筑後川北岸に広がる朝倉市は、三連水車などでも知られるのどかな田園都市、その豊かな自然は、博多万能ネギ、柿や梨といったフルーツ、全国でも希少な淡水ノリ「スイゼンジノリ」などの特産品を生み出してくれます。また、筑前の小京都と称される城下町「秋月」や、夏の風物詩「鵜飼い」が有名な原鶴温泉など、来訪者を魅了する多彩な観光資源も朝倉市の魅力のひとつです。

東 峰 村

- 人 口 2, 648人
- 世帯数 929世帯
- 面 積 51.93km²



小石原焼

東峰村は、歴史と文化の息づく緑豊かな村です。伝統工芸の小石原焼、日本の棚田百選にも選ばれた竹地区の美しい棚田、炭鉱の歴史や、山村文化を紹介する「いぶき館」などがあります。また、四季の彩りも豊かで春先の新緑に続き5月下旬から6月中旬には蛭が乱舞、夏真っ盛りの親水公園河川プールは子どもたちで大賑わい。秋の訪れとともに国道211号は紅葉ロードとなり、冬には都会では見られない雪景色を楽しむ事ができます。

筑 前 町

- 人 口 29, 266人
- 世帯数 9, 649世帯
- 面 積 67.18km²



上高場の大藤

北部には夜須高原や目配山などの緑豊かな自然環境・景観に恵まれ、南部には草場川・曾根田川流域を中心に肥沃な土壌を生かした水田地帯を形成しています。春は樹齢100年を超える大藤や草場川河畔の桜並木が美しく、秋はコスモスが咲き誇り、行き交う住民の心を和ませてくれます。水稻、大豆、いちご、梨など農業を中心とした産業が盛んで、毎年秋には五穀豊穡を祝う祭で町内がにぎわいます。福岡都市圏へのアクセスもよく、人と自然とが一体となった、快適でゆとりある田園生活都市を目指しています。

管内図と庁舎の現況

西部分署



所在地 朝倉郡筑前町下高場3599番地3
敷地面積 2,000.59㎡
構造 鉄筋コンクリート造2階建
延面積 435.12㎡
管轄区域 筑前町
位置 東経 130°36'02"
北緯 33°27'04"



甘木・朝倉消防本部 甘木・朝倉消防署



所在地 朝倉市一木18番地20
敷地面積 7,054.86㎡
構造 鉄筋コンクリート造3階建
延面積 2,332.76㎡
管轄区域 朝倉市・朝倉郡一円
位置 東経 130°39'53"
北緯 33°24'23"



東出張所



所在地	朝倉郡東峰村大字小石原鼓837番地11
敷地面積	1,659.80㎡
構造	鉄筋コンクリート造鋼板葺2階建
延面積	576.73㎡
管轄区域	東峰村
位置	東経 130°51'00"
	北緯 33°25'05"

東部分署



所在地	朝倉市杷木寒水92番地1
敷地面積	1,420.00㎡
構造	鉄筋コンクリート造2階建
延面積	464.12㎡
管轄区域	朝倉市杷木地域
位置	東経 130°48'34"
	北緯 33°21'45"

朝倉出張所



所在地	朝倉市宮野2142番地2
敷地面積	1,833.00㎡
構造	鉄筋コンクリート造2階建
延面積	380.18㎡
管轄区域	朝倉市朝倉地域
位置	東経 130°43'25"
	北緯 33°23'01"

消防の歴代管理者

甘木市消防本部（昭和40年3月1日 ～ 昭和51年9月30日）

市 長

歴代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間	備 考
初代	塚 本 倉 人	昭和40年 3月 1日	昭和47年11月17日	7年 9月	
二代	富 田 英 一	昭和47年11月18日	昭和51年 5月21日	3年 7月	
三代	塚 本 倉 人	昭和51年 6月20日	昭和51年 9月30日	4月	

消 防 長

歴代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間	備 考
初代	塚 本 倉 人	昭和40年 3月 1日	昭和42年12月21日	2年10月	事務取扱
二代	高 橋 清 美	昭和42年12月22日	昭和49年 6月10日	6年 6月	
三代	山 崎 房 美	昭和49年 6月11日	昭和51年 9月30日	2年 4月	

消防署長

歴代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間	備 考
初代	高 橋 清 美	昭和40年 3月 5日	昭和48年11月30日	8年 9月	
二代	山 崎 房 美	昭和48年12月 1日	昭和51年 9月30日	1年10月	

甘木・朝倉消防本部（昭和51年10月1日 ～ 現在）

理 事 長

歴代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間	備 考
初代	塚 本 倉 人	昭和51年10月 1日	昭和63年 6月19日	11年10月	甘木市長
二代	友 納 昭 智	昭和63年 6月20日	平成 3年 3月28日	2年 9月	甘木市長
三代	中 島 茂 嗣	平成 3年 5月 7日	平成 8年 5月15日	5年 0月	甘木市長
四代	佐 藤 誠 良	平成 8年 7月14日	平成12年 7月13日	4年 0月	甘木市長
五代	塚 本 勝 人	平成12年 7月19日	平成18年 3月19日	5年 8月	甘木市長
		平成18年 5月 2日	在職中		朝倉市長

副理事長

歴代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間	備 考
初代	藤 原 重 実	昭和51年10月 1日	昭和54年 4月30日	2年 7月	朝倉町長
二代	林 一 二 三	昭和54年 5月14日	昭和62年 4月 9日	7年11月	杷木町長
三代	徳 田 善 友	昭和62年 5月 7日	平成 元年 7月23日	2年 3月	夜須町長
四代	藤 井 金 與	平成 元年 8月 3日	平成 3年 4月30日	1年 9月	朝倉町長
五代	稲 永 勝 己	平成 3年 5月 7日	平成 7年 4月30日	3年11月	三輪町長
六代	熊 谷 昭 巳	平成 7年 5月12日	平成11年 4月30日	3年11月	杷木町長
七代	手 柴 豊 次	平成11年 5月12日	平成17年 3月21日	5年10月	三輪町長
		平成17年 5月19日	平成21年 4月23日	3年11月	筑前町長
八代	田 頭 喜久己	平成21年 5月20日	在職中		筑前町長

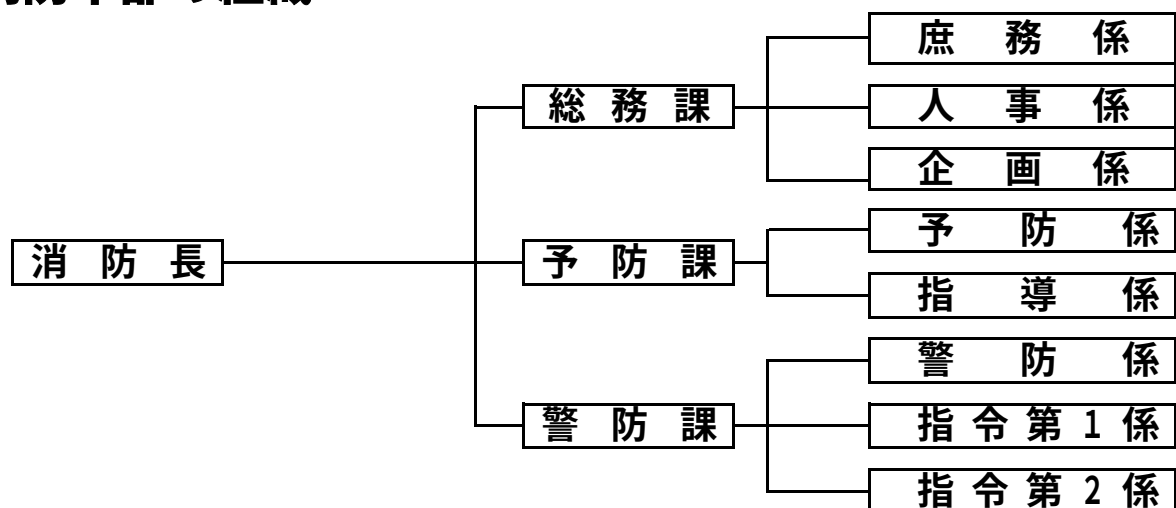
消 防 長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間
初 代	山 崎 房 美	昭和51年10月 1日	昭和53年 3月31日	1年 6月
二 代	白 石 公 海	昭和53年 4月 1日	昭和57年 2月28日	3年11月
三 代	山 田 昌 實	昭和57年 3月 1日	昭和63年 3月31日	6年 1月
四 代	空 閑 道 雄	昭和63年 4月 1日	平成 4年 3月31日	4年 0月
五 代	立 石 新	平成 4年 4月 1日	平成 8年 3月31日	4年 0月
六 代	西 岡 隆 士	平成 8年 4月 1日	平成11年 2月10日	2年11月
七 代	川 藤 市 郎	平成11年 2月11日	平成15年 3月31日	4年 1月
八 代	金 子 義 郎	平成15年 4月 1日	平成19年 3月31日	4年 0月
九 代	舟 木 潤 一	平成19年 4月 1日	在職中	

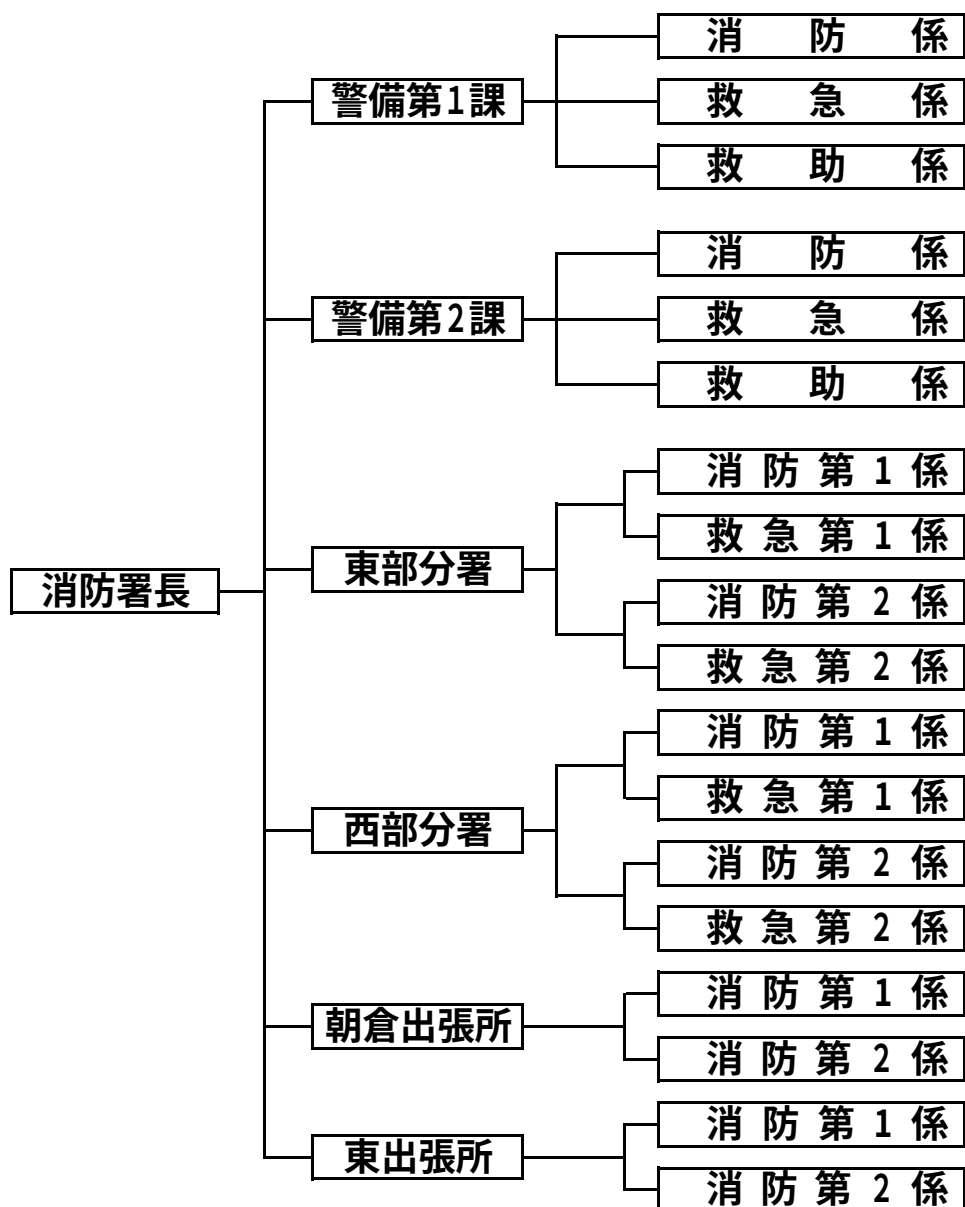
消防署長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	在任期間
初 代	山 崎 房 美	昭和51年10月 1日	昭和52年10月31日	1年 1月
二 代	山 田 昌 實	昭和52年11月 1日	昭和55年 3月31日	2年 5月
三 代	空 閑 道 雄	昭和55年 4月 1日	平成 元年 3月31日	9年 0月
四 代	立 石 新	平成 元年 4月 1日	平成 4年 3月31日	3年 0月
五 代	川 島 勝 治	平成 4年 4月 1日	平成 8年10月31日	4年 6月
六 代	川 藤 市 郎	平成 8年11月 1日	平成10年 3月31日	1年 5月
七 代	立 野 紀 幸	平成10年 4月 1日	平成12年 3月31日	2年 0月
八 代	金 子 義 郎	平成12年 4月 1日	平成13年 3月31日	1年 0月
九 代	立 野 紀 幸	平成13年 4月 1日	平成14年 3月31日	1年 0月
十 代	金 子 義 郎	平成14年 4月 1日	平成15年 3月31日	1年 0月
十一代	林 武 好	平成15年 4月 1日	平成19年 3月31日	4年 0月
十二代	大 場 豊	平成19年 4月 1日	平成20年 3月31日	1年 0月
十三代	野 村 良 和	平成20年 4月 1日	在職中	

消防本部の組織



消防署の組織



消防本部、消防署の事務分掌

消防本部

総務課

庶務係

- (1) 例規及び令達に関すること。
- (2) 文書の審査及び収受・発送に関すること。
- (3) 予算に関すること。
- (4) 物品の出納保管に関すること。
- (5) 契約に関すること。
- (6) 財産に関すること。
- (7) 公印に関すること。
- (8) 消防施設に関すること。
- (9) 車両等の燃料の管理に関すること。
- (10) 課の庶務に関すること。
- (11) その他各課、係に属しないこと。

人事係

- (1) 職員の任免、服務、分限及び懲戒その他身分に関すること。
- (2) ほう賞及び表彰に関すること。
- (3) 職員の給与及び福利厚生に関すること。
- (4) 職員の教養、監察に関すること。
- (5) 職員の公務災害及び賞じゅつに関すること。
- (6) 渉外に関すること。
- (7) 職員の給与品及び貸与品に関すること。
- (8) 消防職員委員会に関すること。

企画係

- (1) 消防事務の総合企画及び調整に関すること。
- (2) 消防広域化に関すること。
- (3) 庁舎に関すること。

予防課

予防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 危険物の規制に関すること。
- (3) 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- (4) 液化石油ガス販売事業許可の意見書交付に関すること。
- (5) 危険物取扱者に関すること。
- (6) 防災協会に関すること。
- (7) その他危険物等の火災予防に関すること。

指導係

- (1) 建築物の同意事務に関すること。
- (2) 防火対象物の消防用設備等に関すること。

- (3) 防火管理者に関すること。
- (4) 旅館、ホテル等の通知書の交付に関すること。
- (5) 防火思想の普及宣伝の計画及び実施に関すること。
- (6) 火災の調査に関すること。
- (7) 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの育成指導に関すること。
- (8) 自衛消防隊等の育成指導に関すること。
- (9) 消防設備士会に関すること。
- (10) 予防統計及び広報に関すること。
- (11) その他火災予防に関すること。

警防課

警防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 警防業務の運営及び管理に関すること。
- (3) 警防事務の調査研究及び企画立案に関すること。
- (4) 消防機械器具施設の企画整備及び管理に関すること。
- (5) 消防機械器具等の改良考案に関すること。
- (6) 消防の応援協定に関すること。
- (7) その他警防に関すること。

指令第1係、指令第2係

- (1) 消防統計及び消防情報に関すること。
- (2) 気象に関すること。
- (3) 火災警報に関すること。
- (4) 非常招集に関すること。
- (5) 通信指令に関すること。

消 防 署

警備第1課 ・ 警備第2課

消防係

- (1) 課の庶務に関すること。
- (2) 職員の服務規律に関すること。
- (3) 職員の配置に関すること。
- (4) 職員及び消防団員等の訓練指導に関すること。
- (5) 職員の給与品及び貸与品の管理に関すること。
- (6) 火災統計に関すること。
- (7) 広報に関すること。
- (8) 庁舎及び備品等の維持管理に関すること。
- (9) 危険物規制事務の指導に関すること。
- (10) 少量危険物及び指定可燃物の規制事務の指導に関すること。
- (11) 火災等の原因及び損害の調査に関すること。
- (12) 防火対象物の消防用設備等の指導に関すること。
- (13) 予防査察に関すること。
- (14) 火災予防の実施及び指導に関すること。
- (15) 諸証明及び各種届出に関すること。
- (16) その他警備に関すること。

救急係

- (1) 救急統計に関すること。
- (2) 救急機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (3) 救急に関すること。

救助係

- (1) 救助統計に関すること。
- (2) 潜水に関すること。
- (3) 消防機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (4) 水・火災、その他災害の予防警戒及び防ぎよに関すること。
- (5) 警防計画及び訓練に関すること。
- (6) 消防対象物の調査指導に関すること。
- (7) 消防特別警戒に関すること。
- (8) 地理水利に関すること。
- (9) 救助に関すること。

分署

消防第1係、消防第2係、救急第1係、救急第2係

- (1) 警備第1・2課、消防係、救急係、救助係に同じ。

出張所

消防第1係、消防第2係

- (1) 警備第1・2課、消防係、救急係、救助係に同じ。

消防相互応援協定の状況

協 定 名	協 定 市 町 村	締 結 年 月 日	協 定 の 内 容
高速自動車道における消防相互応援協定	福岡県下16消防本部	昭和61年10月15日	火災・事故発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
福岡県消防相互応援協定	福岡県内の全市町村全消防本部	平成 元年 3月25日	県内において大規模な災害が発生した場合に広域応援体制を確立することにより、災害による被害を最小限に防止する
隣接常備消防相互応援協定	日田玖珠広域行政事務組合	平成 2年 2月26日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	福岡県田川地区消防組合	平成 5年 6月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	飯塚地区消防組合	平成 6年12月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	久留米広域市町村圏事務組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	筑紫野太宰府消防組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防力を活用し被害を最小限に防止する

消防本部の沿革

年 次		主 な で き ご と
昭和４０年	３月	○甘木市消防本部（署）創設、市長が消防長事務取扱 ○甘木市消防本部（署）発足 ○職員２０名採用
	４月	○幹部職員５名採用 ○仮庁舎にて業務開始
	１０月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入 ○救急業務任意実施
昭和４１年	１月	○消防庁舎完成移転
	９月	○財団法人日本船舶振興会、財団法人日本消防協会、甘木ライオンズクラブ出資により救急自動車の寄贈を受ける
	１１月	○消防専用無線（中短波）基地局１局、移動局１局開局
昭和４２年	１月	○甘木市危険物安全協会発足
	３月	○消防庁長官表彰旗を受賞 ○筑後地区消防設備士会甘木部会発足
	１０月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD－Ⅰ型〕の寄贈を受ける
	１２月	○消防専用無線（中短波）移動局１局増設
昭和４３年	４月	○救急業務開始（指定実施）
	１１月	○職員４名採用 職員２９名となる
昭和４４年	３月	○職員１名退職
	４月	○職員１名採用
	８月	○消防長を専任とし、消防署長兼務とする
昭和４５年	５月	○有線放送マイクサイレン設置
昭和４６年	４月	○職員７名採用 職員３６名となる
	６月	○甘木市危険物安全協会を甘木・朝倉危険物安全協会に改名 ○甘木市少年消防クラブ結成発足
	１０月	○三輪町の救急業務を受託
昭和４７年	３月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受ける
	５月	○事務職員１名採用 職員３７名となる
昭和４８年	１月	○甘木ロータリークラブより救急自動車の寄贈を受ける
	６月	○職員７名採用 職員４４名となる
	１１月	○職員２名採用 職員４６名となる
	１２月	○消防長の署長兼務を解き、消防長・署長の専任制をとる ○朝倉町の救急業務を受託

年 次		主 な で き ご と
昭和49年	1月	○消防専用無線（超短波）基地局1局、移動局5局開局
	3月	○甘木市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞
	6月	○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員45名となる
	7月	○夜須町の救急業務を受託
		○職員1名退職（他消防本部へ転出）職員44名となる
昭和50年	1月	○甘木・朝倉危険物安全協会より防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置）
	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置） ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より表彰旗受賞
	4月	○職員2名採用 職員46名となる
		○開庁10周年記念式典開催
昭和51年	3月	○甘木市少年消防クラブ、日本防火協会表彰を受ける
	4月	○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（1年間）
	10月	○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防発足
	12月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
昭和52年	1月	○職員12名採用 職員58名となる
	3月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕2台購入（東部・西部分署配置） ○消防救急指令装置導入
	4月	○東部分署開庁（仮庁舎） ○職員17名採用 職員75名となる ○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（2年間）
	8月	○東部分署新庁舎へ移転 ○テレオートガイド装置によるテレホンサービス開始
	10月	○潜水救助隊実働開始
	11月	○社団法人日本損害保険協会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（朝倉出張所配置） ○通信専従員任命
	12月	○西部分署開庁
昭和53年	3月	○職員1名退職 職員74名となる
	4月	○職員1名採用 職員75名となる ○職員8名採用 職員83名となる
	6月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ-A型〕購入（朝倉出張所配置）
	7月	○朝倉出張所開庁
		○司令車2台購入（東部分署・西部分署配置）

年 次		主 な で き ご と
昭和53年	8月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）
	10月	○職員1名退職、5名採用 職員87名となる
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置）
昭和54年	2月	○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔BD-I型〕の寄贈を受ける（本署配置） ○消防用無線中継局開局
	3月	○人員輸送車購入（総務課配置）
	4月	○福岡県消防学校へ教官として1名派遣（1年間）
	6月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン1体寄贈を受ける
	10月	○甘木・朝倉危険物安全協会より査察車の寄贈を受ける（予防課配置） ○辻婦人防火クラブ（昭和46年4月4日発足）の事務局を消防本部に移管
	11月	○甘木朝倉少年婦人防火委員会発足
昭和55年	5月	○職員1名退職 職員86名となる
	6月	○資材運搬車〔2tトラック〕購入（本署配置） ○救命ゴムボート購入
	9月	○司令車購入（朝倉出張所配置）
	11月	○財団法人日本防火協会より防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置）
昭和56年	2月	○辻婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
	3月	○消防本部（署）庁舎建設用地購入 ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	7月	○消防本部広報誌「こちら119」創刊号発行（年2回発行とする）
	11月	○三奈木婦人防火クラブ発足
昭和57年	2月	○職員2名退職 職員84名となる ○職員1名退職（福岡県消防学校へ転出）職員83名となる
	3月	○消防本部（署）新庁舎完成移転 ○無線によるサイレン制ぎょ開始
	4月	○事務連絡車購入（総務課配置）
	8月	○司令車購入（本署配置）
	9月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける
昭和58年	4月	○職員8名採用 職員91名となる
昭和59年	2月	○三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より昭和58年度定例表彰を受ける
	6月	○職員1名退職 職員90名となる
	9月	○高圧ガス製造施設完成
	12月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（東部分署配置）
昭和60年	1月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置）

年 次		主 な で き ご と
昭和60年	4月	○開庁20周年記念式典開催 ○消防本部「20年のあゆみ」発行
昭和61年	2月 3月 4月	○はしご付消防ポンプ自動車〔15m級〕購入（本署配置） ○甘木ライオンズクラブより救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置） ○庁用車購入（総務課配置）
昭和62年	2月 5月 11月	○大分自動車道一部開通（鳥栖～朝倉）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置） ○建設省九州地方建設局主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字古毛） ○職員1名退職 職員89名となる
昭和63年	3月 4月 11月	○救助工作車購入（本署配置） ○職員1名退職 職員88名となる ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良少年消防クラブ表彰を受ける ○職員3名採用 職員91名となる ○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（朝倉出張所配置）
平成2年	3月 4月 8月 9月	○大分自動車道一部開通（朝倉～日田）に伴う救急業務開始 ○社団法人日本自動車工業会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（本署配置） ○職員4名採用 職員95名となる ○職員1名理事長事務部局に出向 実員94名となる ○社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔CD-I型〕の寄贈を受ける（本署配置）
平成3年	4月 5月 6月 12月	○職員6名採用 職員100名となる ○甘木・朝倉危険物安全協会より予防指導車の寄贈を受ける（予防課配置） ○筑後地区消防設備士会甘木部会より視聴覚資材〔オートスライドプロゼクター〕の寄贈を受ける（予防課配置） ○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（西部分署配置）
平成4年	2月 3月 4月	○水そう付消防ポンプ自動車〔II型〕購入（西部分署配置） ○職員1名退職 職員99名となる ○空中散布資器材（バケット他）購入 ○大規模山林災害総合訓練実施（甘木市大字菩提寺）

年 次		主 な で き ご と
平 成 4 年	5月	○全国植樹祭に伴う警備実施（夜須町大字櫛木）
	6月	○職員1名退職 職員98名となる
	7月	○甘木・朝倉危険物安全協会、平成4年度消防関係安全功労者消防庁長官表彰を受ける
	10月	○完全週休二日制を実施
平 成 5 年	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（東部分署配置）
	4月	○職員3名採用 職員101名となる ○幼年消防クラブ（40団体）発足 ○甘木朝倉少年婦人防火委員会、名称を変更し甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会となる
	6月	○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中） ○甘木・朝倉危険物安全協会、名称を変更し甘木・朝倉防災協会となる
	7月	○甘木・朝倉危険物安全協会、平成5年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受ける
	9月	○大規模山林災害総合訓練実施（杷木町大字志波）
	11月	○甘木・朝倉防災協会より、内閣総理大臣表彰に伴う記念事業として防火広報車の寄贈を受ける（予防課配置） ○緊急通報システム（あさくらあんしんライン）実動開始 ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕導入に向けて通信指令室を増築
	2月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（朝倉出張所配置）
	4月	○職員1名理事長事務部局に出向 実員100名となる ○職員15名採用 職員115名となる
平 成 6 年	9月	○司令車2台購入（東部分署、西部分署配置）
	10月	○大規模山林災害総合訓練実施（夜須町大字三箇山）
	12月	○消防本部（署）庁舎改修工事完成
	2月	○職員1名退職 職員114名となる ○司令車購入（東出張所配置） ○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕実動開始 ○阪神・淡路大震災に伴う応援出動（タンク車1台）
平 成 7 年	3月	○甘木・朝倉消防署東出張所落成 ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅰ－A型〕購入（東出張所配置） ○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける（東出張所配置） ○事務連絡車1台購入（総務課配置）

年 次		主 な で き ご と
平 成 7 年	3月	○職員1名退職 職員113名となる
	4月	○東出張所開庁 ○職員2名採用 職員115名となる
	8月	○人員輸送車〔29人乗り〕購入（総務課配置）
	10月	○開庁30周年記念式典開催 ○消防本部「30年のあゆみ」発行
平 成 8 年	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅰ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（東部分署配置） ○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
	11月	○高圧空気ガス製造施設設置
平 成 9 年	3月	○消防ポンプ自動車〔CD-Ⅰ型〕購入（本署配置） ○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（本署配置） ○救急自動車〔2B型〕購入（本署配置） ○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける
	4月	○職員1名採用 職員116名となる ○職員1名退職 職員115名となる
	6月	○福岡県救急医療情報システムのパソコン設置 ○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中）
	8月	○司令車購入（本署配置）
	10月	○司令車購入（朝倉出張所配置）
	11月	○集団救急事故訓練実施（甘木鉄道）
平成10年	1月	○福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕寄贈を受ける（朝倉出張所配置）
	3月	○職員1名退職 職員114名となる
	4月	○職員1名採用 職員115名となる
平成11年	1月	○障害者用緊急通報ファクシミリ電話運用開始
	2月	○職員1名退職 職員114名となる
	3月	○高規格救急自動車購入（本署配置） ○職員2名退職 職員112名となる
	4月	○救急伝送受信装置締結（久留米大学病院・高度救命救急センター） ○高規格救急自動車運用開始、救急救命士実働開始

年 次		主 な で き ご と
平成 11 年	10月	○筑後地区消防設備士会甘木部会より一体型液晶ビデオ映写機の寄贈を受ける (予防課配置)
平成 12 年	2月	○甘木ライオンズクラブよりレサシアン3体の寄贈を受ける
平成 13 年	1月 2月 3月 4月 6月 11月	○財団法人日本消防協会よりリトル・アン20体の寄贈を受ける ○財団法人日本消防協会より防災広報車の寄贈を受ける(本署配置) ○高規格救急自動車購入(西部分署配置) ○甘木ライオンズクラブより防災用資材運搬自動車の寄贈を受ける(本署配置) ○職員1名退職 職員111名となる ○職員1名退職 職員110名となる ○職員2名採用 職員112名となる ○庁用車購入(総務課配置) ○はしご付消防ポンプ自動車〔30m級〕購入(本署配置)
平成 14 年	1月 2月 3月 4月 5月 6月	○社団法人日本損害保険協会より救助工作車の寄贈を受ける(本署配置) ○甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防委員会(委員15名)を設置する ○財団法人日本防火協会より防火広報用視聴覚資器材補助金の交付を受ける ○職員1名採用 職員113名となる ○福岡県・甘木朝倉地区合同総合防災訓練実施(甘木市大字長田) ○職員1名退職 職員112名となる
平成 15 年	3月 4月 5月 8月 11月	○消防総合 OA システム導入 ○職員4名退職 職員108名となる ○職員4名採用 職員112名となる ○予防指導車購入(予防課配置) ○消防総合 OA システム第2次導入 ○高規格救急自動車購入(東部分署配置)
平成 16 年	1月 4月 6月	○甘木・朝倉消防本部基本方針決定 ○福岡県総務部消防防災安全課へ実務研修として1名派遣(1年間) ○福田婦人防火クラブ発足
平成 17 年	2月 3月 4月 5月	○甘木ロータリークラブよりエアータントの寄贈を受ける ○職員1名退職 職員111名となる ○職員2名採用 職員113名となる ○安川婦人防火クラブ発足 ○開庁40周年記念式典開催

年 次		主 な で き ご と
平成 17 年	5 月	○甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される（朝倉町大字田中）
	9 月	○蜷城婦人防火クラブ発足
	12 月	○金川婦人防火クラブ発足
		○甘木女性防火クラブ発足
平成 18 年	3 月	○水槽付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（西部分署配置） ○高規格救急自動車購入（朝倉出張所配置） ○職員 1 名退職 職員 112 名となる ○三奈木婦人防火クラブ（昭和 56 年 11 月発足）の事務局を公民館に移管 ○甘木市少年消防クラブを朝倉市少年消防クラブに改名
	4 月	○職員 3 名採用 職員 115 名となる ○朝倉市少年消防クラブ比良松中学校班、杷木中学校班設立 ○上秋月婦人防火クラブ発足
	5 月	○筑後地区消防設備士会甘木部会を筑後地区消防設備士会朝倉部会に改名 ○高木女性防火クラブ発足
	10 月	○指揮車購入（本署配置）
	12 月	○秋月婦人防火クラブ発足
平成 19 年	1 月	○水槽付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入（東部分署配置）
	3 月	○職員 3 名退職 職員 112 名となる ○朝倉市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞 ○財団法人日本防火協会より防火防災訓練用資器材補助金の交付を受ける
	4 月	○福岡県消防学校へ教官として職員 1 名派遣する（2 年間） ○職員 3 名採用 職員 115 名となる
	5 月	○金川婦人防火クラブを金川女性防火クラブに改名
	6 月	○防火広報車購入（予防課配置）
平成 20 年	2 月	○高規格救急自動車購入（本署配置）
	3 月	○職員 2 名退職 職員 113 名となる
	4 月	○職員 2 名採用 職員 115 名となる
	9 月	○筑後地区消防設備士会朝倉部会、創立 40 周年記念事業で高齢者世帯（250 世帯）に住宅用火災警報器を設置
平成 21 年	2 月	○高規格救急自動車購入（西部分署配置）
	3 月	○職員 3 名退職 職員 112 名となる
	4 月	○職員 4 名採用 職員 116 名となる

